

JASCT

ニューズレター

第11巻第3号

平成4年(1992年)9月

発行人: 松本清一 印刷所: 絢文社

第12回 日本性科学学会のご案内

日時 平成4年9月27日(日曜日) 8時30分～18時10分

会場 三重県四日市市: 四日市市文化会館

学会長 亀谷 謙

テーマ 1 性教育(幼児期から老年期に亘る)

テーマ 2 中高年・老年と性

基調講演 「性教育とは何か」

JASCT会長, 日本家族計画協会理事長 松本 清一

特別講演1 「神宮式年遷宮」

神宮宮掌 河合 真如

特別講演2 「リプロダクティヴヘルスと性」

横浜市立大学医学部産科婦人科学教室助教授 多賀 理吉

学会長講演 「生理的老化と性」

JASCT理事, 小山田記念温泉病院婦人科, 名古屋市立大学講師 亀谷 謙

シンポジウム1 「幼児期から老年期の全生涯に亘る性教育」

司会 日本性教育学会理事, 京都大学講師 今村 要道

シンポジウム2 「中高年, 老年と性」

司会 札幌医科大学泌尿器科学教室教授 熊本 悦明

<主催> 日本セックスカウンセラー・セラピスト協会(JASCT)

<後援> 三重県・四日市市・三重県医師会・四日市市医師会・三医会・三重県産婦人科医会・三重大学医学部産婦人科学教室並びに同門会

三重県教育委員会・四日市市教育委員会・三重県PTA連絡協議会・三重県高等学校PTA連合会・三重県小中学校長会・三重県高等学校長協会・三重県幼稚園協会・三重県教職員組合

Vol.11

No.
3

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

<カウンセリング室からー第2回>

Bさん夫婦の三年間

神尾記念病院 堀 一子
JASCT カウンセリング室

B氏30才、B夫人26才。初診時、結婚一年経過。二人は、B氏は勃起不十分、B夫人は痛みのため挿入不能で未完成婚でした。当初の二人は、女性は誰でも最初は多少痛いものだから、夫に勃起力が回復すれば自分達の問題は解決されると考えていました。

治療は彼らの考えに従って、B氏の勃起不全に焦点をおいて始まりました。3カ月もたないうちに勃起力が回復して、挿入を試みる段階になりました。しかし、そこから先が進みません。挿入を試みるのですが、B氏は夫人の痛そうな顔を見ていると気持ちもペニスも萎えてしまいます。そうこうしているうちに、B夫人は愛撫の行為として夫が膣に指の先をふれただけでも痛みを感じるようになりました。彼女は、セックスなんかなくてもいい、セックスがなくても私達は仲がいいんだからと考え始めます。

挿入を試みることをしばらくやめて、愛撫だけの段階に戻っていただきました。そう割り切ると、また十分に性的に反応するようになりました。この辺りから本当の問題は何なのか、考えていただきたい段階に入ってきます。

治療を始めてから一年余りが経過し、B夫人とだけの面接がしばらく続きました。B夫人の父親は一流企業の企業戦士でマイホームパパの正反対の人だそうです。母親は、一人娘のB夫人に家庭を顧みない冷たい夫へのグチを、幼い頃から言い続けていました。

彼女は父親とは違う優しいタイプのB氏と出会うまで一生結婚をするまいと固く心に誓っていました。このように母親と密着しているようでいて、一方、母親のグチがいやなのでなるべくなら実家へ行きたくありません。でも、母親から電話がくると、行かない自分が冷たいような気がして出かけて行ってしまいます。

ところで、B氏は彼女が言うほど彼女の父親を冷たい人と思っていません。B夫人は、夫と父親がくつろいで談笑しているのを不思議に思うことがあります。

彼女は母親をかわいそうと思う一方、グチで自分を縛りつけてきた母親への怒りを抑えられなくなってきました。

母親の支え役として、いつの間にかしっかりもので感情を表に出さない子にされていた彼女ですが、抑えていた母親へのマイナス感情がわき上がってくると、落ち込みも大きくなっていきました。B氏が会社から帰ると顔を見るなり、「さみしい」とだけ言って泣いていることがありました。

面接室では子供の頃流せなかった涙を毎回流されます。ある日、泣いていた顔をふともち上げ、「涙って甘えですか」と問いかけられたことがありました。彼女は甘えることも泣くことも自分に許してこなかったのです。B夫人の中の女性観が修正され、いままでの自分と違うかわいい自分を見いだすまで、いろいろな出来事と月日が必要でした。

ある日、B夫人は親友の妊娠を知らされました。その人のことは、私も時々彼女から聞いていました。その人もB夫人と同じ頃結婚して、まだお子さんのいない人でした。私は思わず「それは悲しいね。おいていかれた感じがしたね」と言ったのでした。彼女はひとしきり泣いた後「これを先生に言ったら、そう言ってもらえるとは思っていなかった。『もっと明るく考えなさい』と、言われると思っていた」とおっしゃるのでした。その日彼女は泣くだけ泣いて、嬉しそうに帰っていきました。

次の回来で、B夫人は前日母親と初めて大げんかをしたことを話しました。けんかの原因はとるに足りないことだったようですが、母親の言葉になぜかその日は突然カーっとなって、「もうおかあさんのことをかわいそうに思わないことにした」と言ってしまったそうです。言ってしまったらすっきりしたとも。

そして次の回、B夫人は全快の知らせをもたらしてくれました。治療が始まってから、三年が過ぎていました。

さて、解剖学的にはワギニスムスの患者の性器は正常です。しかし、ひとたび挿入が試みられると苦痛や恐怖から条件反射的に膣が痙攣、収縮して性交が出来なくなります。患者は、通常一方では治療を望み、他方では治療を恐れるというジレンマにとらわれています。妻のこのような機能不全に対して、夫は単に欲求不満を感じるだけのこともあります。妻の障害に対する反応としてインポテンス症状を示すこともあります。

ところで、私は来院時に二人の間で問題になっていることが、男性のインポテンスであればそこから治療を始めます。女性のワギニスムスに気が付いていても、その方への働きかけはしますが本人に心の準備ができるまで無理はしません。しかし、本人が自分の問題に直面化できる時がきたら、その援助の機会を逃しません。

B夫人は、心のどこかで自分の問題に気付いていました。しかし、その解決には多大なエネルギーが必要なことも判っていたので、夫の問題を解決することだけで、なんとかならないものかと思っていました。

B夫人の母親は、女性としての自分も母親としての自分も肯定的に受け入れることができない人だったようです。

B夫人はこの不安定な母親に育てられ、大人の女性になることがなかなか出来なかったようです。そのことでは、どこか母親を恨んでいるはずなのですが、それをなかなか認めることができません。なぜならば、不安定な母親に恨みを向ければ母親が傷つきその仕返しとして母から捨てられてしまうという恐れがあったからです。B夫人に問題への直面化を遅らせた背景には、このようなことがあったのです。

母親のことを話し始めてから、どんどん落ち込んでいった当時、彼女は大人の女になっていきつつ、母親を捨てていく「さみしさ」をかみしめていたのです。



近代セクソロジーの100年

ジャックス・ワインベルグ著

小山田記念温泉病院 亀谷 謙

人はセクシュアリティを理解する必要に迫られた。それでセクシュアリティに意義と体制を与えた。セクソロジーは最も古い人間科学と言えよう。それにセクソロジーは人類の文化水準を高めるものである。

Plato や Dante, Hippocrates や Darwin 等々の作品の中に我々の歴史の各時期の leitmotif (中心思想) として心に浮かぶ。また、セクソロジーは万人共通の知識情報に見られなければならない。

科学、宗教、社会的伝統、性的多様性が祖先を無視する空しい現代を正当化するかどうか。19世紀末に於ける人間の科学が社会に変革をもたらした。科学データは客観的ではあるが、経験的モデルはもっと信頼すべきである。

20世紀のこの大変貌が手段方法によってのみならず、個人と社会との衝突に於てもたらされたことは決定的であった。

近代セクソロジーとして確立された「倒錯」の脱精神療法、ホモが論点となった。

世界中のセクソロジストは現在 2000 人で、その90%は男性では勃起、早漏、女性ではオーガズム不全、結婚不一致に集中している。

歴史学者、統計学者、社会学者、生物学者の協同の状況はもはやない。

アジアは、閉鎖された伝統的な監視の下にある理論の衝撃によって惑わされるべきではない。開拓精神は 1933 年の事件によって失われてしまった。戦後のセクソロジーは医学の力に対する宣誓済みの忠誠をもっているからフェミニストの間の叫び、避妊の一般有用性及び流産の合法化がセクソロジーの復活に導く時期があった。インポテンス、ヴァギニズムに悩んでいる人たちの世話をすることは価値があった。

しかし今世紀の大きい論点は生理学が進歩し、人工受精、人口統計学の進歩、宗教的根本主義、行動モデルの標準化によって引き起こされた空前の倫理的発行物である。

セクソロジスト達がこれらの討論に注意をしないことは残念である。

The European Family Planning Magazine "Entre Nous" No. 18/August 1991

Dr Jacques Waynberg : Director, Institute of Sexology 30, rue Saint Dominique F-72007 Paris France

JASCT 会員の出版された書籍の紹介

「教養の家族社会学」

西村洋子・遠藤恵子・島村忠義 編著

学文社 2,500 円 (消費税込)

家族とは何なのか、家族はどこから来てどこへ行こうとしているのか……というテーマを社会学の立場から真正面にとりあげた著作です。第21回性治療研修会(平成4年4月)において「文化変容と性」と題して講演された島村氏(JASCT 幹事)は「家族の起源と学説」を担当執筆しています。家族における個人の尊厳と両性の平等をキーワードに、家族成立について述べています。日本の婚姻の歴史を探ってみると、古代においては妻問い婚といって妻方の家に妻屋をたてて男が通う方法がとられ、その後婿入り婚の形態に変わってゆきます。武士階級の勃興によって嫁取り婚となり、明治維新とともに夫婦婚の時代に入ってゆきますが、本格的な夫婦婚の確立は第二次世界大戦後だそうです。

1つの項目を紹介しましたが、家族の機能、構造、結婚、親族、そして変貌する家族像と現代家族といった構成です。性は生物学的側面ばかりでなく、社会的側面が大きく影響を与えますので、視野を広げるために参考となる本です。

(聖マリアンナ医科大学 長田 尚夫)

国際学会のお知らせ

The 35th Annual Meeting. The Society for the Scientific Study of Sex.

日 時 1992年11月12～15日

場 所 San Diego, California, U.S.A.

(ただし、演題提出期限はすぎています)

XI World Congress of Sexology. (第11回世界セクソロジー会議)

日 時 1993年6月1～5日

場 所 Rio de Janeiro, Brazil.

第12回世界セクソロジー会議について

○会 期 1995年(平成7年)8月22日(火)～8月26日(土)

○会 場 横浜市・パシフィコ横浜

○主 催 第12回世界セクソロジー会議組織委員会

○共 催 日本セックスカウンセラー・セラピスト協会 日本インポテンス学会
(社)日本家族計画協会 日本思春期学会 (財)日本性教育協会

○協 賛 世界セクソロジー学会(World Association for Sexology=WAS)

備 考 性科学の国際交流の歴史は1974年のフランス・パリの会議に始まり、1992年の現在まで10回を重ね、1995年の第12回大会は初めてわが国で開催されることが決まりました。会長には松本清一JASCT会長が内定しております。わが国におけるセクソロジーの発展に寄与するのみならず、アジア諸国、ひいては世界のセクソロジーの発展に貢献できるものと期待されます。

新入会員

お手数ですが、お手持ちの名簿にご加筆ください。

—— ニュースレターへ投稿して下さい ——

ニュースレターは会員皆様のものです。そこで会員の声ともいべきスペースを作って、お互のコミュニケーションを密接にしてゆきたいと考えております。性に関するご意見、日常活動の様子など、情報交換の場になることを期待しております。どんなことでも結構ですから、お気軽にご投稿ください。

また、ニュースレターに関するご意見やご提案がありましたら、遠慮なく編集部までお寄せ下さい。

届 先 JASCT事務局 編集部

〒107 東京都港区南青山1-1-1

新青山ビル西館3F 長谷クリニック内

—— 会費納入のお願い ——

10月より新しい年度(平成4年10月1日～平成5年9月30日)に入りますので、平成5年度年会費15,000円の納入を、よろしくお願いいたします。手数料が無料となります。会の郵便振替用紙を同封しますのでご利用下さい。

銀行振込の場合は：横浜銀行青山支店 普通預金 918-042002 JASCTです。